

1) 部位別・男女別のがん登録件数（2011～2023年診断症例）

—— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）部位別・男女別のがん登録件数から見る、当院の傾向 ——

男性は ①大腸 ②胃 ③前立腺 ④肺 ⑤膀胱の順で登録件数が多く見られました

女性は ①乳房 ②大腸 ③子宮 ④胃 ⑤肺 の順で登録件数が多く見られました

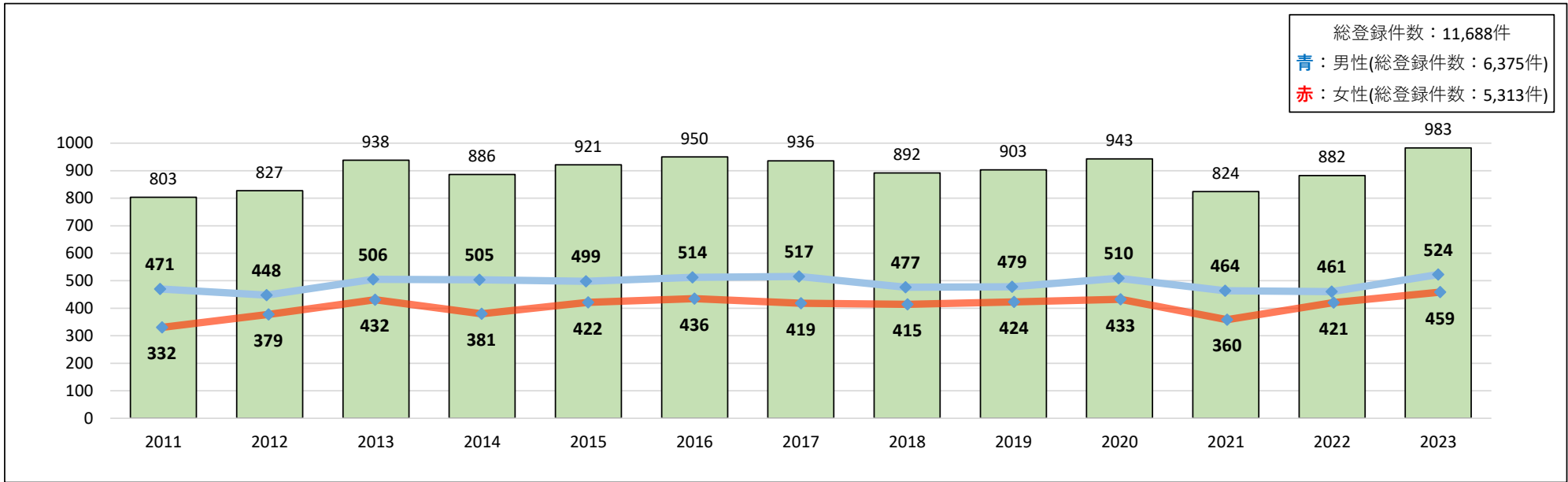
2024年12月現在

腫瘍部位	男 性														女 性													
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	計	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	計
胃	81	76	100	101	91	86	86	81	67	74	57	58	72	1030	35	36	41	39	33	41	45	34	39	33	29	38	37	480
大腸	83	81	91	99	95	95	108	80	78	89	78	61	94	1132	49	57	60	48	60	64	51	47	65	53	58	56	73	741
肝	25	24	17	33	28	24	39	34	35	30	25	27	32	373	-	11	-	13	13	-	-	12	13	11	-	11	-	136
肺	30	40	46	45	33	36	39	45	45	53	46	44	50	552	11	18	20	20	26	19	20	26	33	22	26	21	34	296
乳房	-	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	-	-	-	69	101	113	79	97	130	117	115	96	114	96	105	121	1353
頭頸部 咽喉頭	12	19	25	-	15	11	-	11	-	20	20	21	13	195	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56
食道	22	21	25	24	19	32	23	23	17	13	15	17	11	262	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47
胆のう 胆道	18	19	12	14	23	20	-	13	21	24	13	18	23	226	14	12	16	12	-	15	-	12	11	17	-	-	15	157
膵	19	18	25	22	29	22	18	13	14	16	17	29	26	268	17	-	22	22	23	16	18	23	20	23	14	26	28	260
腎	-	12	13	13	-	-	16	12	16	-	14	13	-	150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63
腎盂 尿管	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
膀胱	45	26	29	25	30	27	27	33	33	35	30	41	29	410	-	-	-	11	13	13	-	-	-	11	-	-	-	117
前立腺	76	72	60	58	52	72	65	56	66	66	64	67	90	864														
子宮															41	49	39	45	40	28	43	47	47	38	27	33	46	523
卵巣															-	-	-	-	-	14	-	-	-	11	-	17	-	112
皮膚	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44
甲状腺	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	27	17	34	26	29	28	26	22	-	16	11	-	-	261
脊髄 中枢神	-	-	-	-	11	-	15	-	-	11	-	-	-	89	-	-	-	-	-	-	25	16	12	16	13	18	12	143
造血器 腫瘍	12	12	14	13	22	24	13	16	22	18	26	23	18	233	14	-	17	11	11	13	-	12	15	18	15	14	12	167
悪性 リンパ腫	-	-	18	19	16	13	13	26	19	21	16	16	27	223	-	16	16	15	21	-	11	-	18	16	13	24	18	196
その他の 部位	-	-	-	-	-	-	11	-	-	12	-	-	13	90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	68
原発 不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	45
合計	471	448	506	505	499	514	517	477	479	510	464	461	524	6375	332	379	432	381	422	436	419	415	424	433	360	421	459	5313

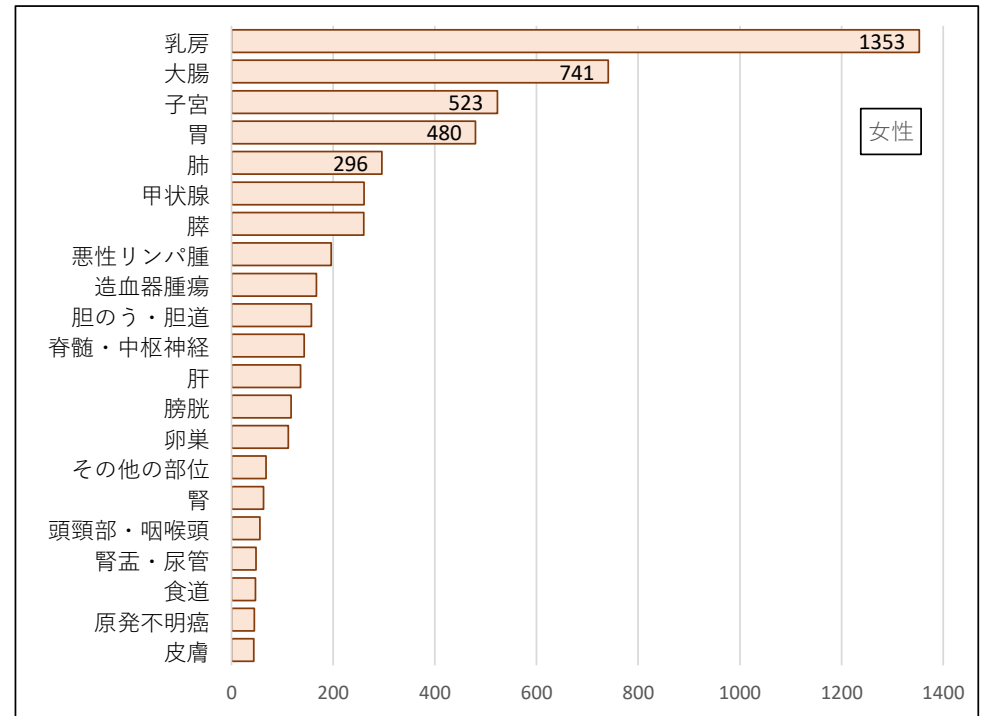
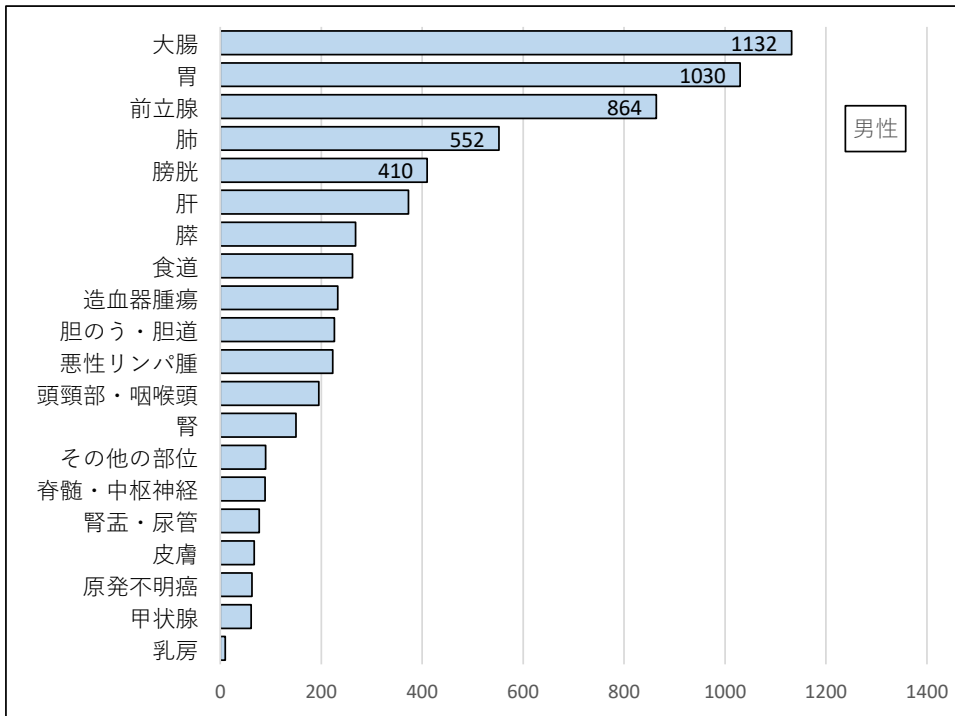
集計値が0を除く10未満の場合、値を(-)ハイフンで表示しています

1) - 1 診断年別・男女別のがん登録件数 (2011~2023年診断症例)

2024年12月現在



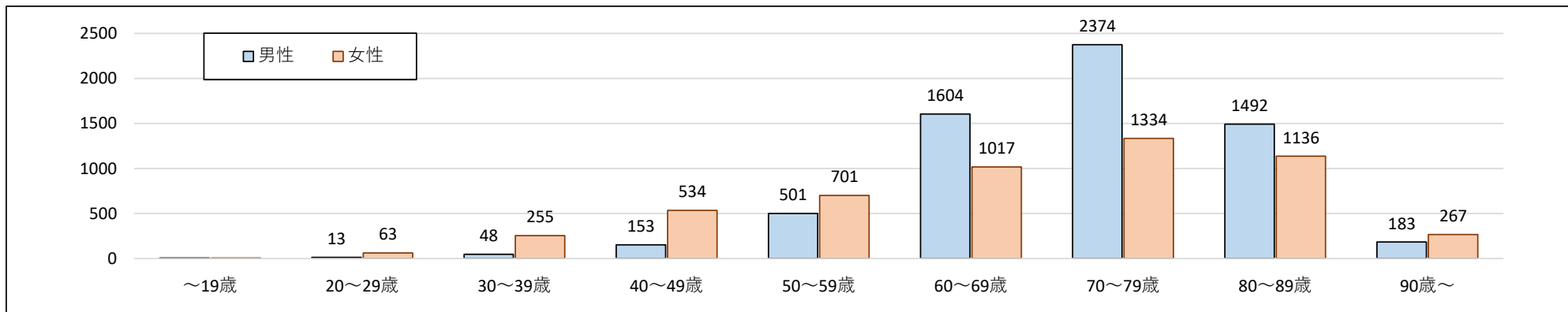
1) - 2 部位別・男女別のがん登録件数 (2011~2023年診断症例)



2) 年齢階級別・男女別のがん登録件数（2011～2023年診断症例）

—— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）年齢階級別・男女別のがん登録件数から見る、当院の傾向 ——
 男性、女性ともに70～79歳の年齢階級の登録件数が最も多く、60歳以上が全体の80.5%を占めています

2024年12月現在



集計値が0を除く10未満の場合、非表示としています

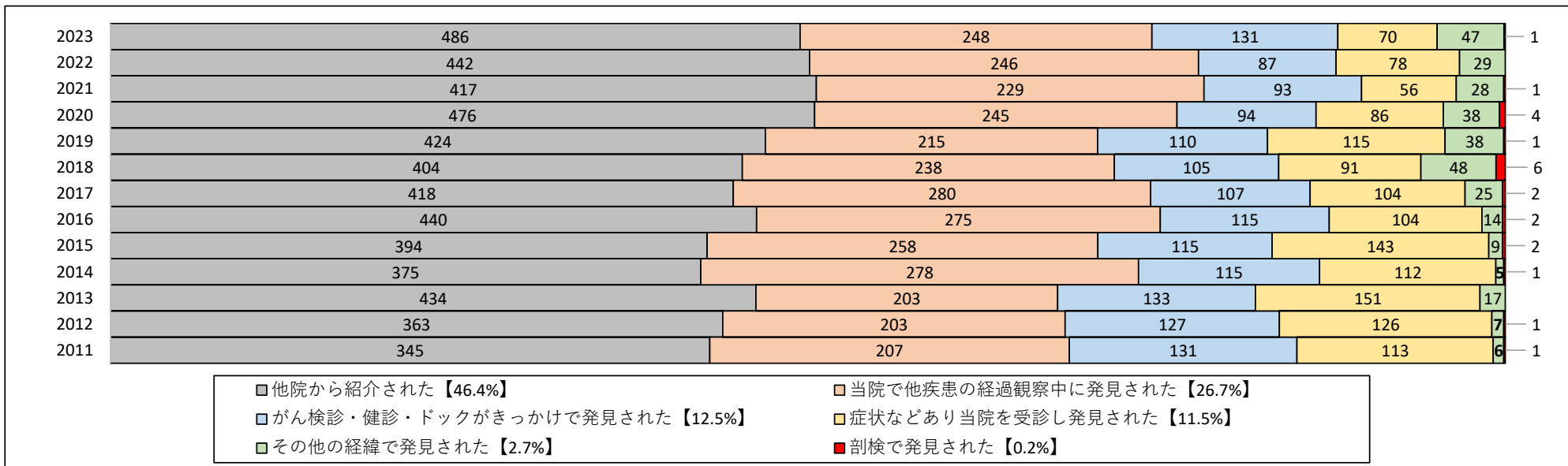
3) 来院・発見の経緯（2011～2023年診断症例）

※来院・発見の経緯とは、「がん」と診断されるに至った受診のきっかけや、経緯をまとめたものです

—— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）年齢階級別・男女別のがん登録件数から見る、当院の傾向 ——

2011～2023年診断症例の中で「他院から紹介された」（46.4%）症例が最も多く、
 次いで「当院で他疾患の経過観察中に発見された」（26.7%）症例が多く見られました

2024年12月現在



他院から紹介された 【46.4%】
 がん検診・健診・ドックがきっかけで発見された 【12.5%】
 その他の経緯で発見された 【2.7%】
 当院で他疾患の経過観察中に発見された 【26.7%】
 症状などあり当院を受診し発見された 【11.5%】
 剖検で発見された 【0.2%】

4) 5大がん・前立腺がん・子宮がんの登録件数（2011～2023年診断症例）

※5大がん：わが国で罹患数の多い主要ながん「胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん・乳がん」を指します

※男性・女性に特異的な「前立腺がん」「子宮がん」も併せて表示しました

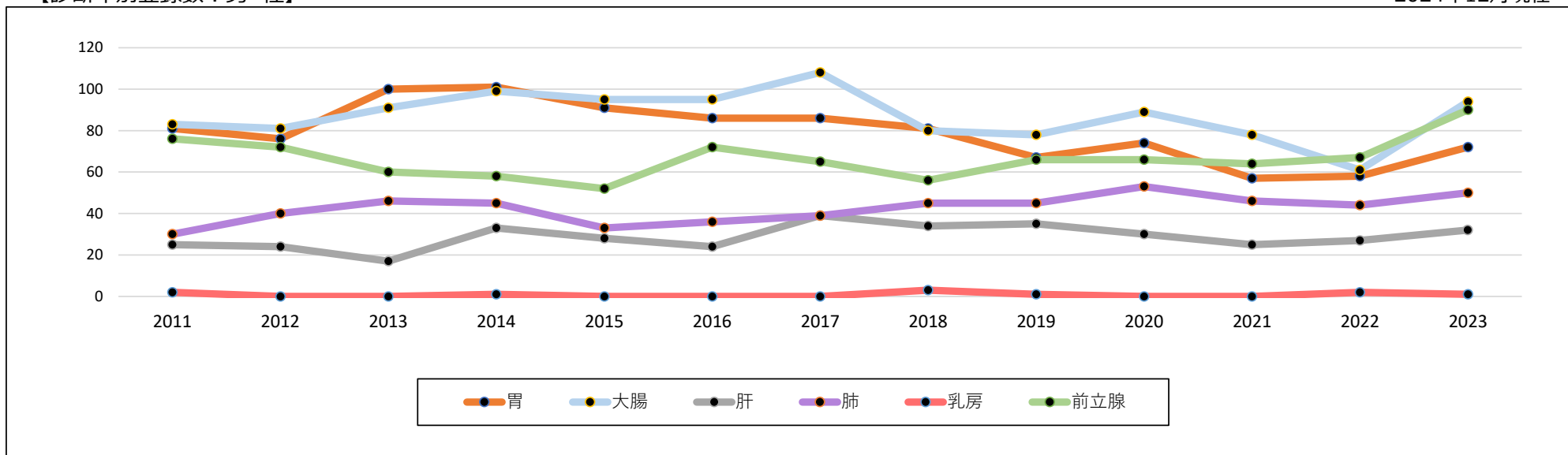
— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）5大がん・前立腺がんの登録件数から見る、当院の傾向 —

男性：診断年別登録数では「大腸がん」の登録数が多く、

年齢階級別では「5大がん・前立腺がん」共に70歳代の登録数が多く見られました

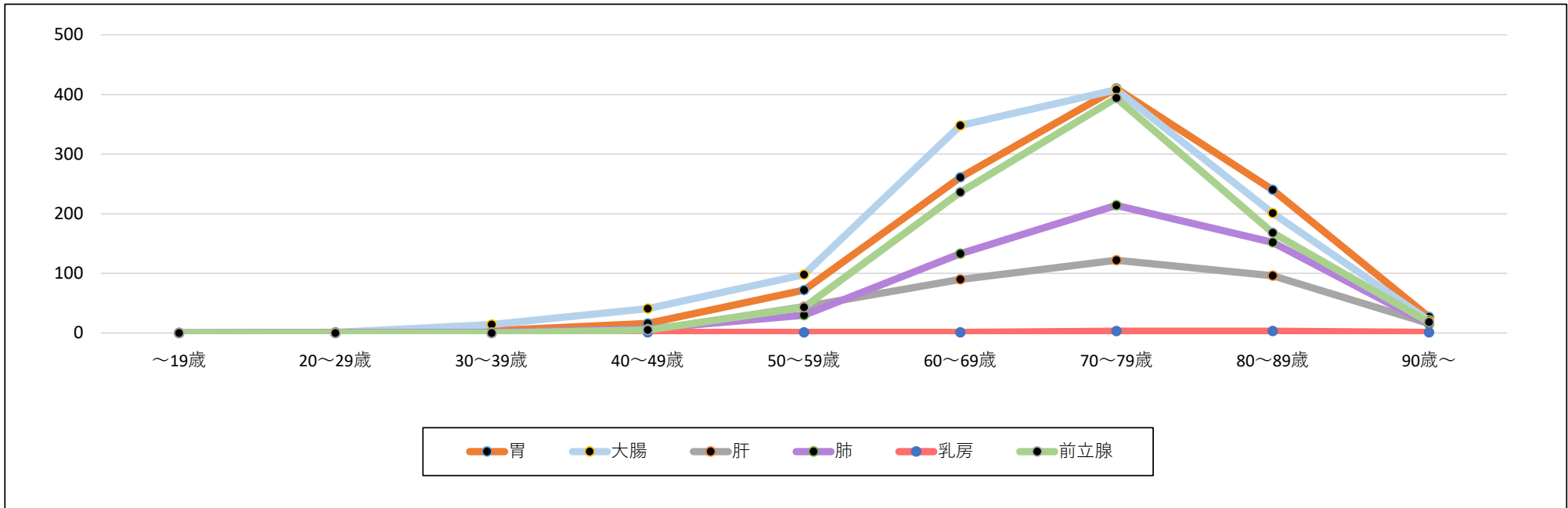
【診断年別登録数：男性】

2024年12月現在



診断年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	計
胃	81	76	100	101	91	86	86	81	67	74	57	58	72	1,030
大腸	83	81	91	99	95	95	108	80	78	89	78	61	94	1,132
肝	25	24	17	33	28	24	39	34	35	30	25	27	32	373
肺	30	40	46	45	33	36	39	45	45	53	46	44	50	552
乳房	-	0	0	-	0	0	0	-	-	0	0	-	-	-
前立腺	76	72	60	58	52	72	65	56	66	66	64	67	90	864
計	297	293	314	337	299	313	337	299	292	312	270	259	339	3,961

集計値が0を除く10未満の場合、値を(-)ハイフンで表示しています



年齢階級	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90歳~
胃	0	0	-	16	72	261	410	240	27
大腸	0	-	14	41	98	348	408	201	21
肝	0	-	0	-	44	90	122	96	16
肺	0	0	-	-	30	133	214	152	15
乳房	0	0	0	-	-	-	-	-	-
前立腺	0	0	0	-	43	236	394	168	18
計	0	-	19	74	288	1,069	1,551	860	98

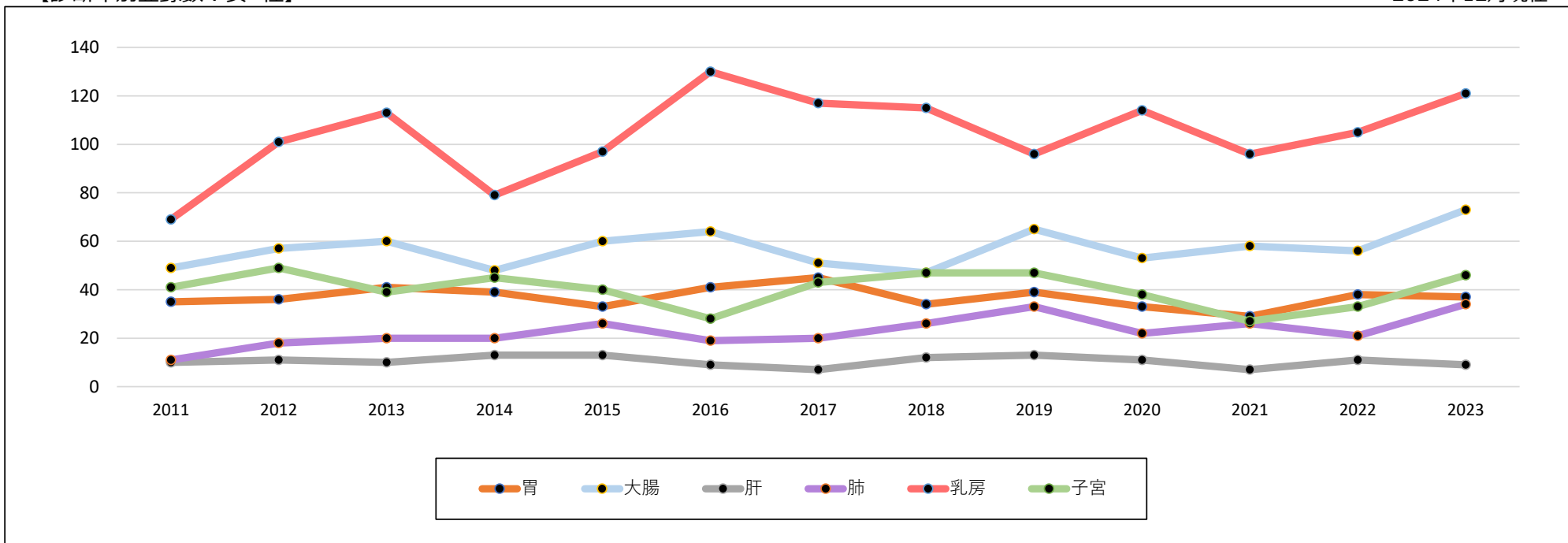
集計値が0を除く10未満の場合、値を(-)ハイフンで表示しています

— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）5大がん・子宮がんの登録件数から見る、当院の傾向 —

女性：診断年別登録数では「乳がん」の登録数が多く、
 年齢階級別では「子宮がん」は30歳代、「乳がん」は60歳代、「胃がん・大腸がん・肝がん」は70歳代、
 「肺がん」は80歳代の登録数が多く見られました

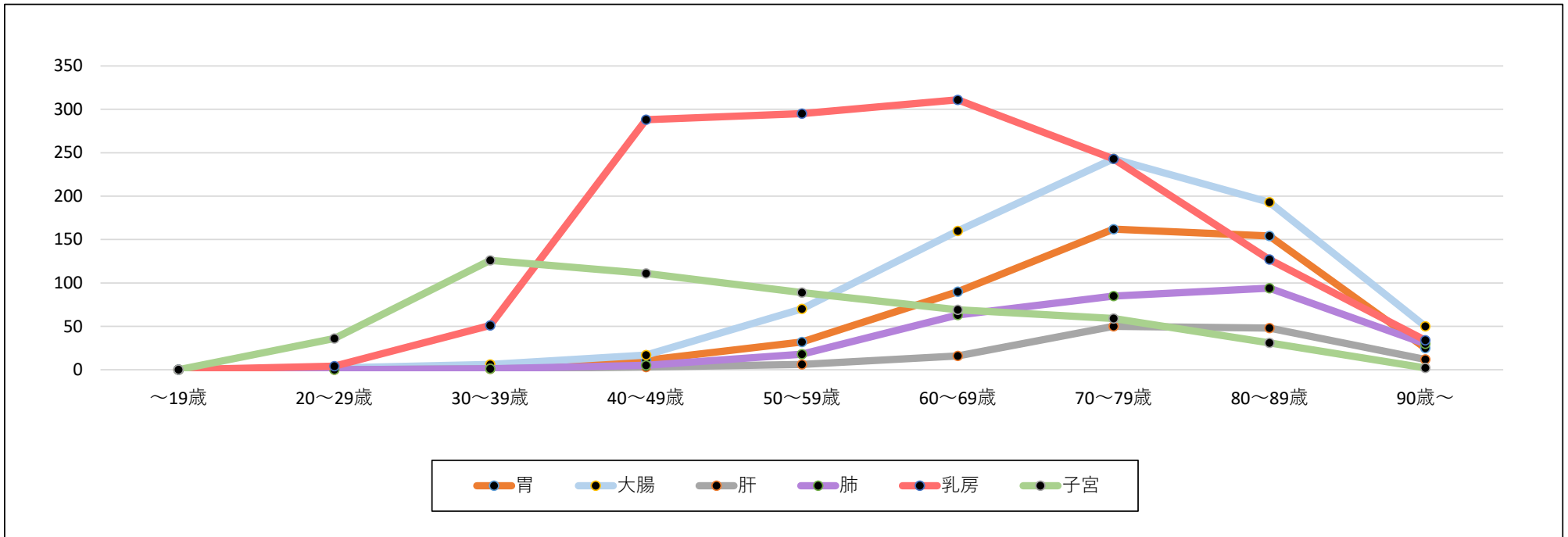
【診断年別登録数：女性】

2024年12月現在



診断年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	計
胃	35	36	41	39	33	41	45	34	39	33	29	38	37	480
大腸	49	57	60	48	60	64	51	47	65	53	58	56	73	741
肝	-	11	-	13	13	-	-	12	13	11	-	11	-	136
肺	11	18	20	20	26	19	20	26	33	22	26	21	34	296
乳房	69	101	113	79	97	130	117	115	96	114	96	105	121	1,353
子宮	41	49	39	45	40	28	43	47	47	38	27	33	46	523
計	215	272	283	244	269	291	283	281	293	271	243	264	320	3,529

集計値が0を除く10未満の場合、値を(-)ハイフンで表示しています



年齢階級	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～
胃	0	-	-	11	32	90	162	154	25
大腸	0	-	-	17	70	160	243	193	50
肝	0	0	-	-	-	16	50	48	12
肺	0	0	-	-	18	63	85	94	30
乳房	0	-	51	288	295	311	243	127	34
子宮	0	36	126	111	89	69	59	31	2
計	0	43	190	435	510	709	842	647	153

集計値が0を除く10未満の場合、値を(-)ハイフンで表示しています

5大がんの初回治療内容について

5大がんの初回治療内容（2011～2023年診断症例）

※5大がん：わが国で罹患数の多い主要ながん「胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん・乳がん」を指します

— がん治療内容の説明 —

初回治療の定義 初回治療とは、当院・他院を問わず「がん」と診断されてから計画された一連の治療のことであり、がんに対する手術や化学療法、放射線治療等、および経過観察という行為を初回治療とみなします。病状悪化などで後に行った手術や化学療法などは、初回治療に含みません。

治療なしの定義 当院・他院を問わず「がんと診断」された患者さんが、初回治療を当院で実施しない場合や、治療方針を決定していたが治療前に来院しなくなった、当院に治療目的で紹介されたが当院では治療を行わず、他院へ紹介した場合などを指します。

○ 2015年診断症例までの「治療なし」の解釈：（「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「経過観察のみ」・「他院での初回治療終了後に紹介された場合」）となります。

○ 2016年診断症例からの「治療なし」の解釈：（「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「他院での初回治療終了後に紹介された場合」）となり、「経過観察のみ」は新たな項目に含まれたため、「治療なし」の定義から外れることになりました。

その他の治療の定義 腫瘍の縮小・消失を目的に行われた初回治療のうち「手術」・「内視鏡的治療」・「放射線療法」・「化学療法」・「内分泌療法」のいずれにも該当しない治療を指します。

症状緩和的治療の定義 腫瘍の縮小・消失を目的に行われた初回治療と同じタイミングで、「原発巣の症状を緩和する目的で実施された治療や処置」などを指します。従って、精神的サポートなどの緩和ケアは含みません。（症状緩和的治療の例：輸血、消化管バイパス手術、ステント留置、胸水・腹水ドレナージ、疼痛コントロール目的の医療用麻薬の使用など）

2016年診断症例から、がん治療内容の項目が変更されたため、
2011～2015年診断症例、2016～2023年診断症例を分けて表示しました。

— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）5大がん治療内容から見る、当院の傾向 —

胃がん・大腸がんは「手術」や「内視鏡」による治療が多く実施されていました。
肝がんは「手術」や「TACE = 肝動脈化学塞栓療法」、肺がんにおいては「薬物療法」が多く、
乳がんでは「手術+薬物療法」、「手術+放射線療法+薬物療法」が多く実施されていました。
全体的に「治療なし」も多く見られますが、上記に示した「治療なしの定義」、「経過観察」の
解釈によるものです。

5大がんの初回治療内容について

5大がんの初回治療内容（2011～2023年診断症例）

※5大がん：わが国で罹患数の多い主要ながん「胃がん・大腸がん・肝がん・肺がん・乳がん」を指します

— がん治療内容の説明 —

初回治療の定義 初回治療とは、当院・他院を問わず「がん」と診断されてから計画された一連の治療のことであり、がんに対する手術や化学療法、放射線治療等、および経過観察という行為を初回治療とみなします。病状悪化などで後に行った手術や化学療法などは、初回治療に含みません。

治療なしの定義 当院・他院を問わず「がんと診断」された患者さんが、初回治療を当院で実施しない場合や、治療方針を決定していたが治療前に来院しなくなった、当院に治療目的で紹介されたが当院では治療を行わず、他院へ紹介した場合などを指します。

○ 2015年診断症例までの「治療なし」の解釈：（「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「経過観察のみ」・「他院での初回治療終了後に紹介された場合」）となります。

○ 2016年診断症例からの「治療なし」の解釈：（「診断のみ」・「治療前の来院中止」・「他院での初回治療終了後に紹介された場合」）となり、「経過観察のみ」は新たな項目に含まれたため、「治療なし」の定義から外れることになりました。

その他の治療の定義 腫瘍の縮小・消失を目的に行われた初回治療のうち「手術」・「内視鏡的治療」・「放射線療法」・「化学療法」・「内分泌療法」のいずれにも該当しない治療を指します。

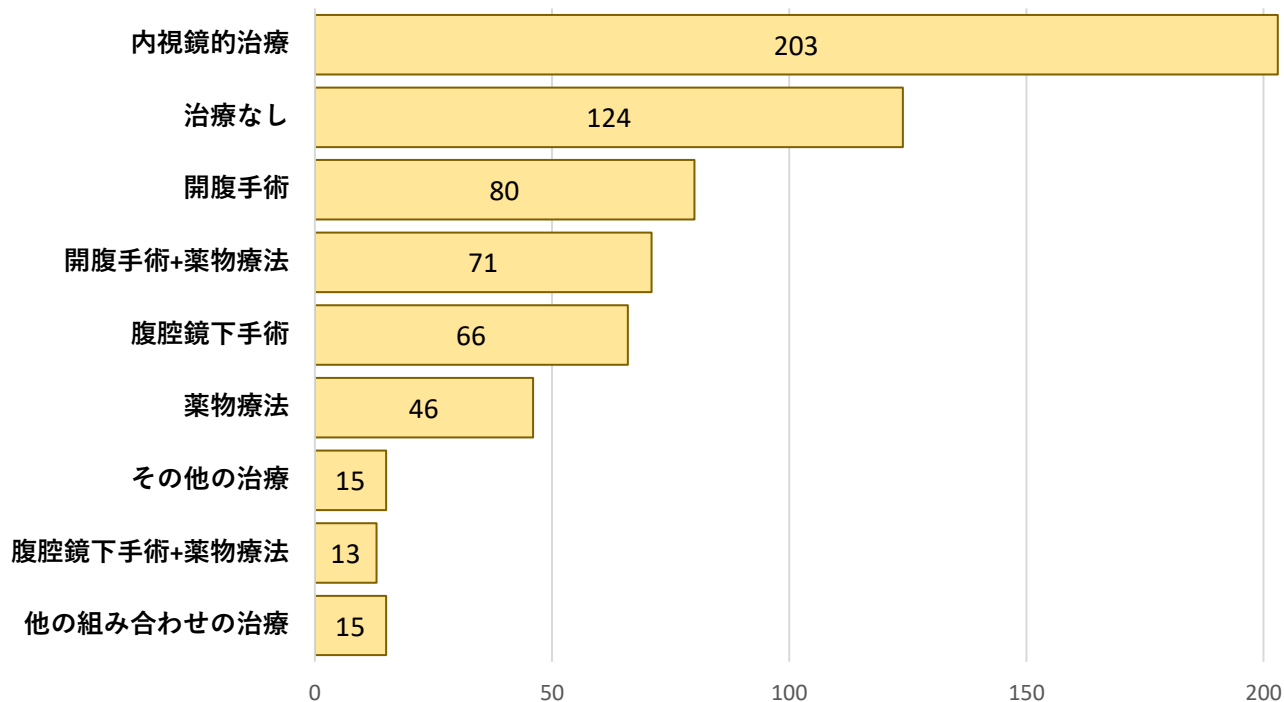
症状緩和的治療の定義 腫瘍の縮小・消失を目的に行われた初回治療と同じタイミングで、「原発巣の症状を緩和する目的で実施された治療や処置」などを指します。従って、精神的サポートなどの緩和ケアは含みません。（症状緩和的治療の例：輸血、消化管バイパス手術、ステント留置、胸水・腹水ドレナージ、疼痛コントロール目的の医療用麻薬の使用など）

2016年診断症例から、がん治療内容の項目が変更されたため、
2011～2015年診断症例、2016～2023年診断症例を分けて表示しました。

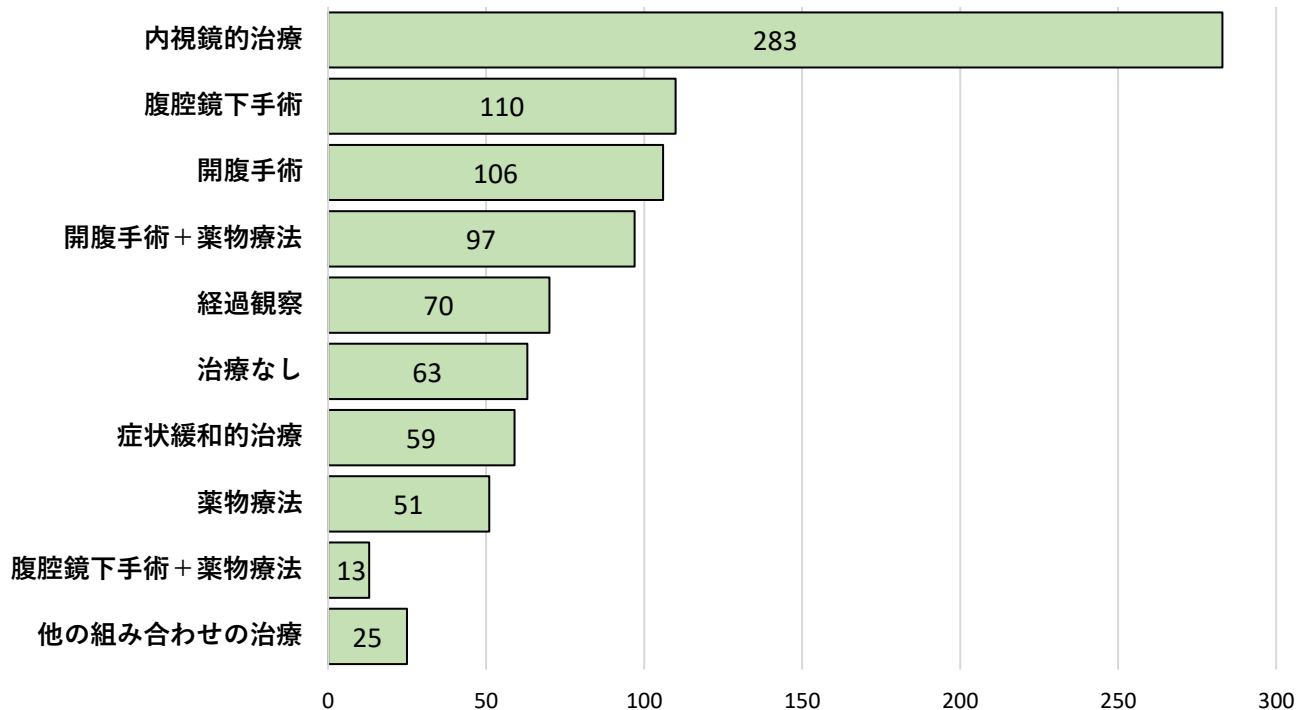
— 院内がん登録（2011～2023年診断症例）5大がん治療内容から見る、当院の傾向 —

胃がん・大腸がんは「手術」や「内視鏡」による治療が多く実施されていました。
肝がんは「手術」や「TACE = 肝動脈化学塞栓療法」、肺がんにおいては「薬物療法」が多く、
乳がんでは「手術+薬物療法」、「手術+放射線療法+薬物療法」が多く実施されていました。
全体的に「治療なし」も多く見られますが、上記に示した「治療なしの定義」、「経過観察」の解釈によるものです。

胃がん治療内容（2011～2015年診断症例） 633件

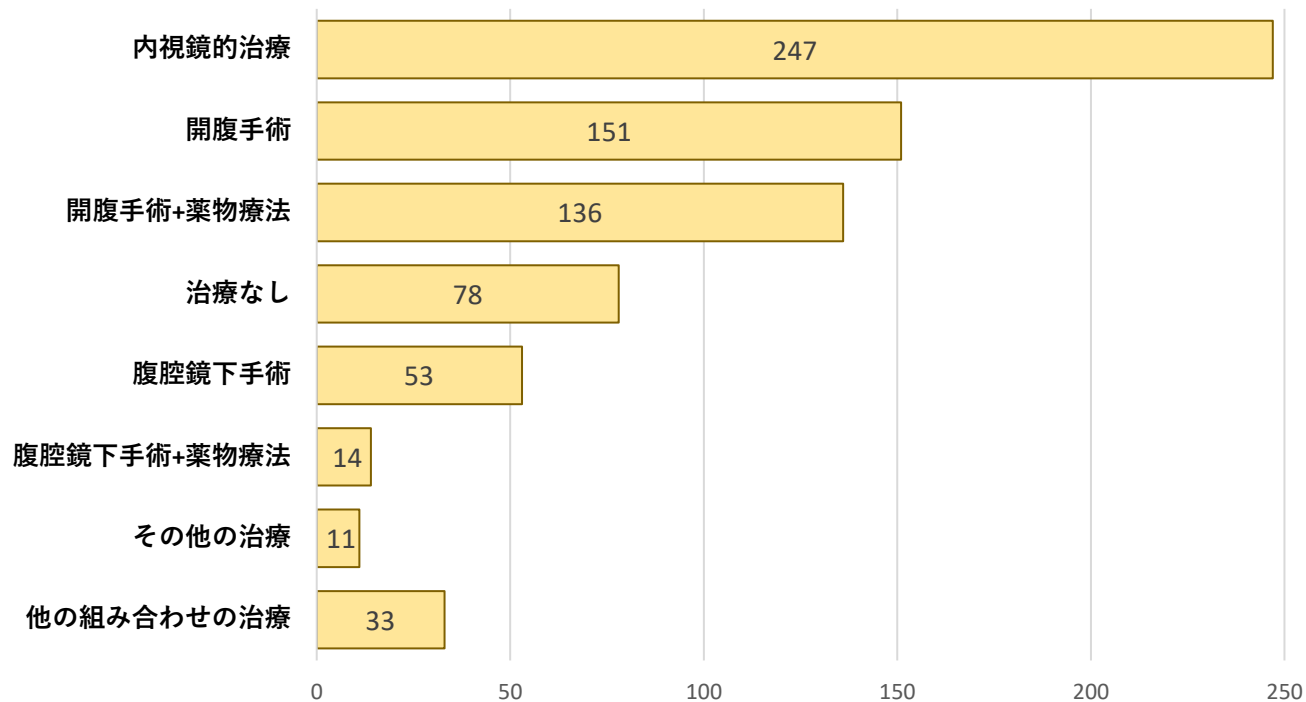


胃がん治療内容（2016～2023年診断症例） 877件

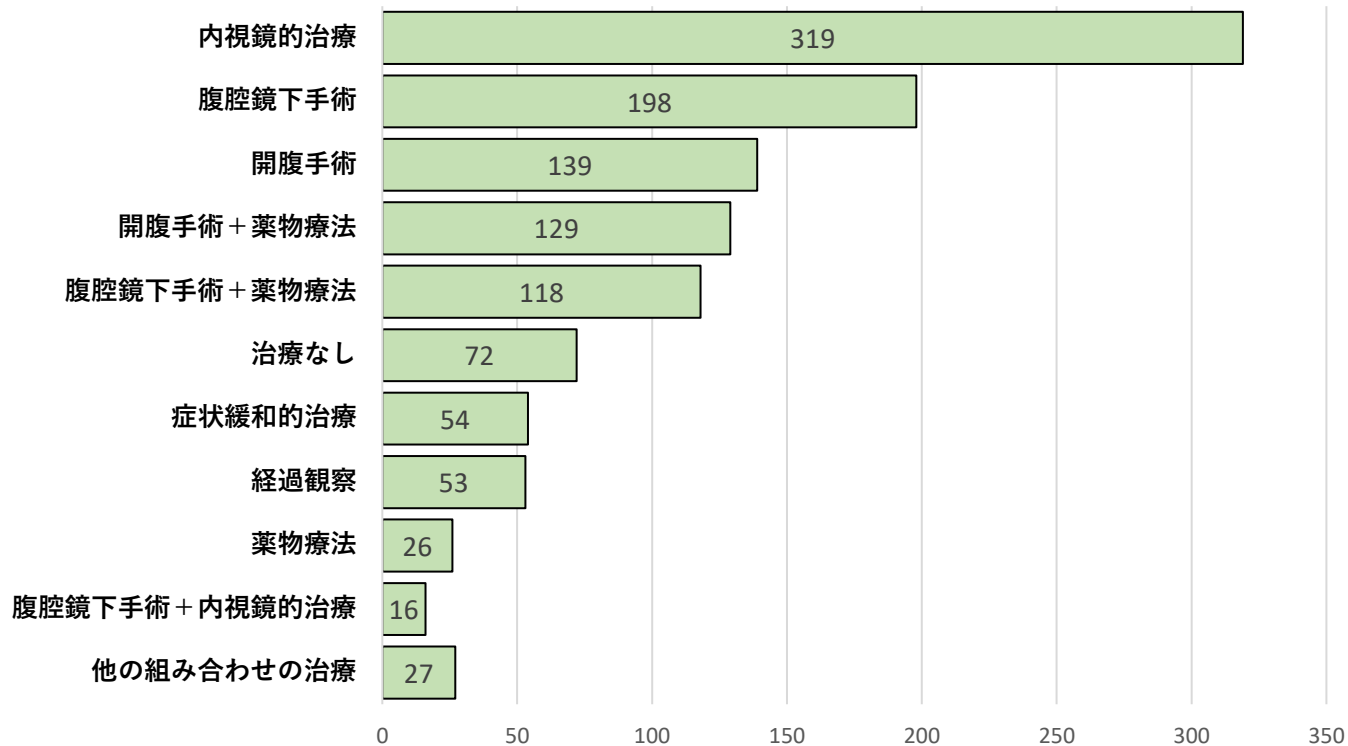


※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む）

大腸がん治療内容（2011～2015年診断症例）723件

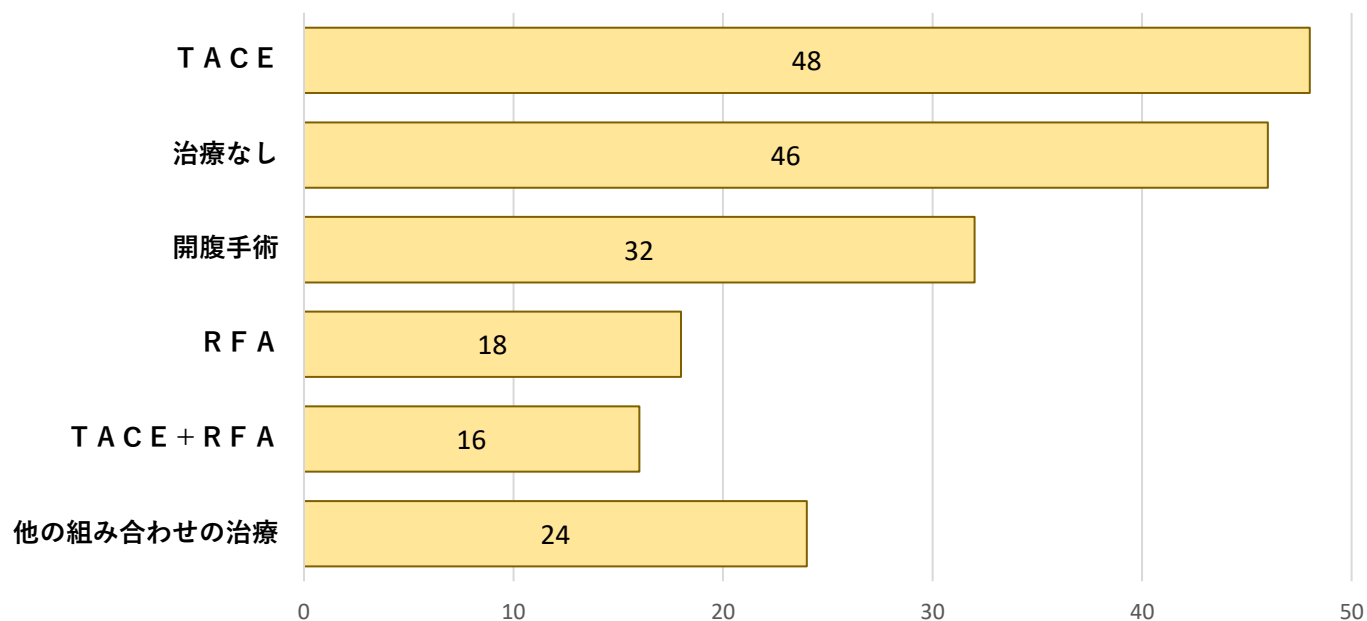


大腸がん治療内容（2016～2023年診断症例）1151件



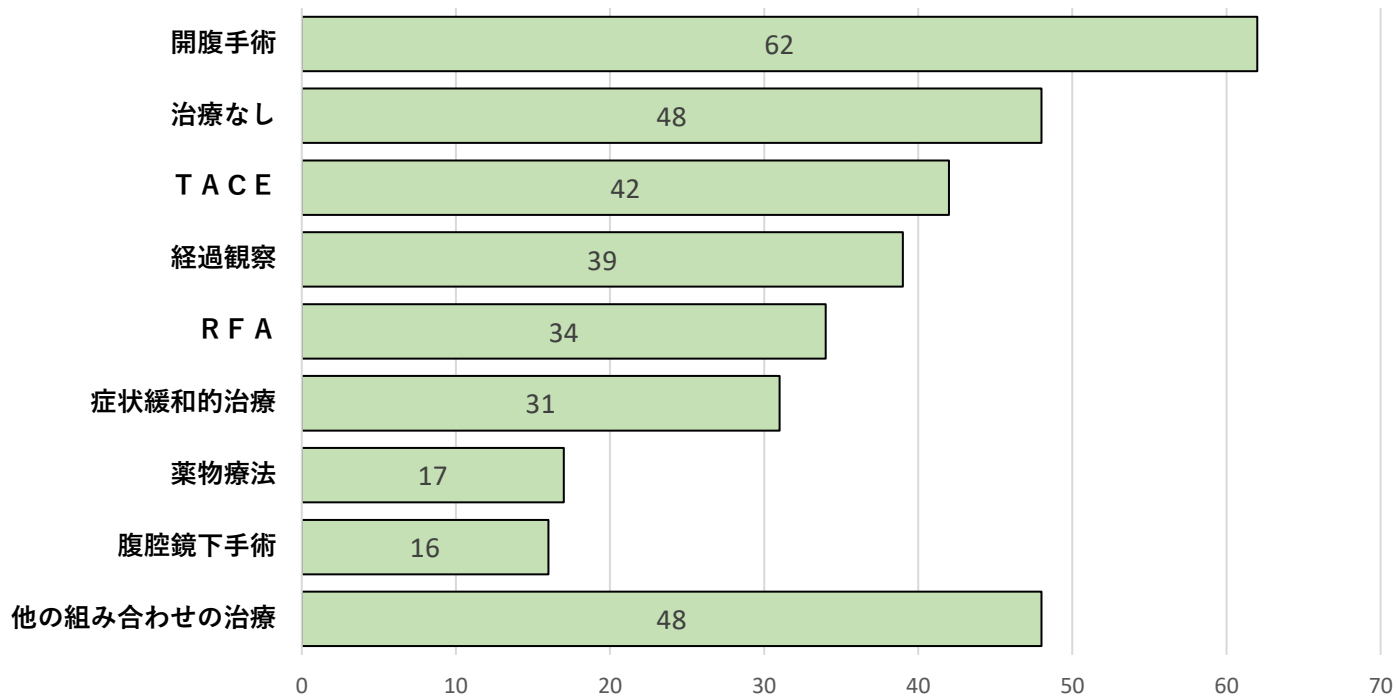
※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む）

肝がん治療内容（2011～2015年診断症例）184件



※ TACE：肝動脈(化学)塞栓療法 RFA：肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 PTPE：経皮的肝門脈塞栓術

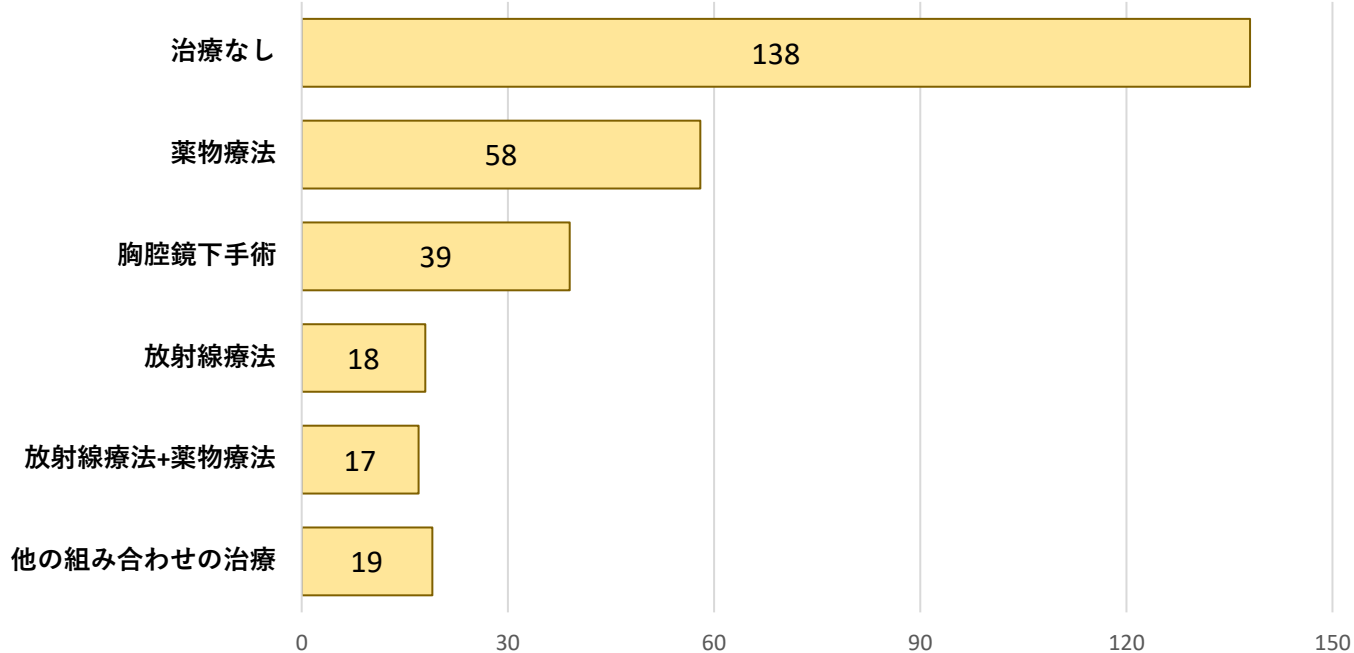
肝がん治療内容（2016～2023年診断症例）337件



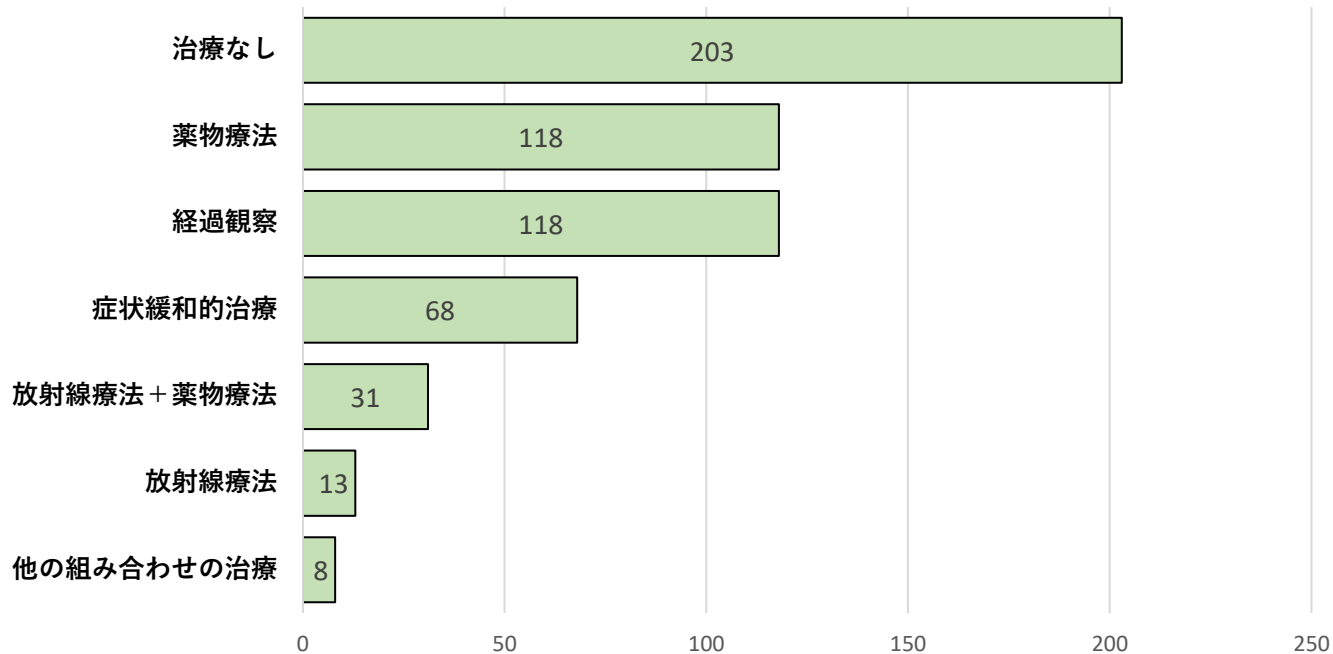
※ TACE：肝動脈(化学)塞栓療法 RFA：肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 PTPE：経皮的肝門脈塞栓術

※ 腹腔鏡下手術（ロボット手術含む）

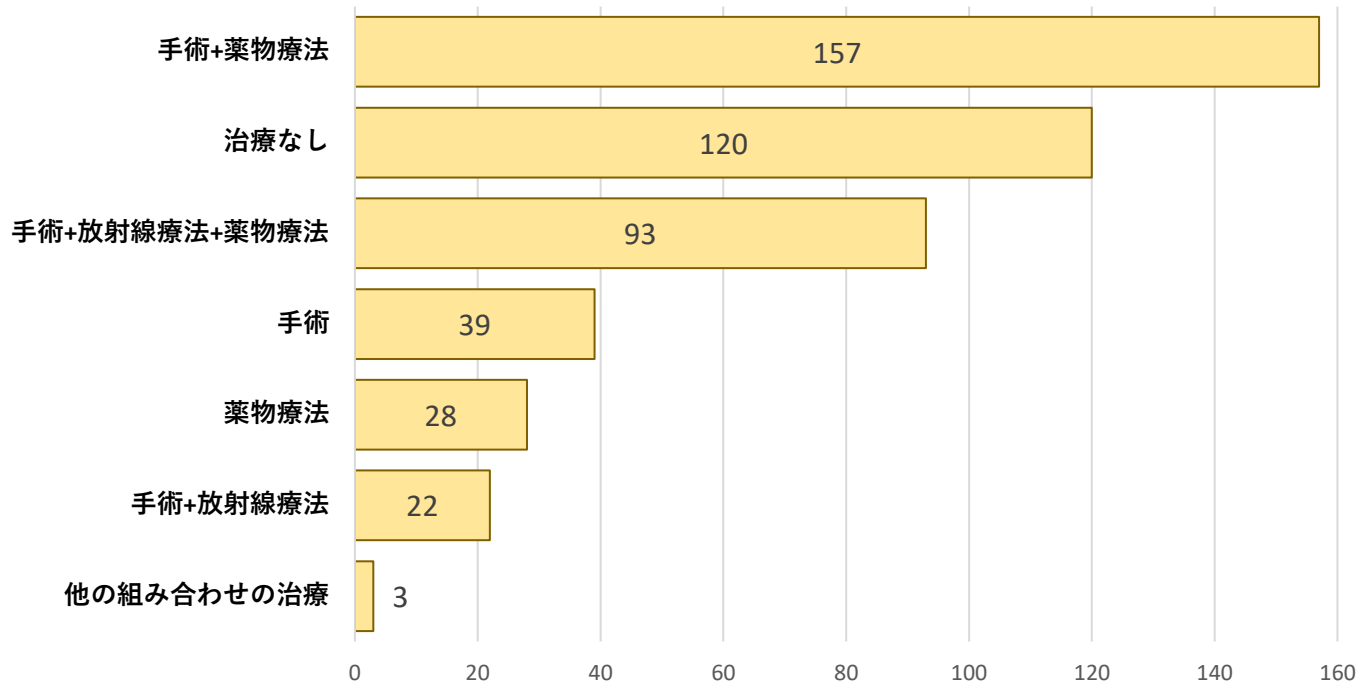
肺がん治療内容（2011～2015年診断症例） 289件



肺がん治療内容（2016～2023年診断症例） 559件



乳がん治療内容（2011～2015年診断症例） 462件



乳がん治療内容（2016～2023年診断症例） 901件

